

カニの分布

■七北田川河口域の環境

レポートNo. 40で取り上げた七北田川河口域であるが、震災前の蒲生干潟に近い姿を示している (Fig. 1)。ヨシ原にアシハラガニの巣穴が多数見られ (Fig. 2) ボラの稚魚が泳ぐ姿も見られる。アシハラガニは河口から1200mほど上流にある高砂橋付近でも見られた。



Fig.1 河口域の様子



Fig.2河口域のアシハラガニ

■ヒライソガニはいない

蒲生干潟にはイソガニの仲間が分布する。導流堤の素材である石の隙間や干潟に散らばる石の下などに生息している。書籍にはヒライソガニと表記されているものがあるが、調査時に採集されるイソガニはケフサイソガニ (Fig. 3) ばかりであった。今回の調査で干潟内 (43匹)、導流堤 (25匹) のカニを確認したが、全てケフサイソガニであった。ケフサイソガニは淡水の影響を受ける場所に生息するカニであり、蒲生干潟に分布するイソガニの仲間は全てケフサイソガニではないかと思われる。なお、干潟内のケフサイソガニは小型の個体が、導流堤付近のケフサイソガニは大型の個体が多かった。メスは抱卵している個体も見られた。

干潟内には他にコメツキガニ、チゴガニ、アシハラガニが見られた。干潟全体に最も多く分布するのはコメツキガニで砂地の部分に広く生息していた。チゴガニ、アシハラガニは泥地の生息していたが広い範囲ではなかった。



Fig.3ケフサイソガニ